

# 27日 火曜

## 創世記

28:10 ヤコブはベエル・シェバを出て、ハランへと向かった。

28:11 彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすこととした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。

28:12 すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。

28:13 そして、見よ、【主】がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

28:16 ヤコブは眠りから覚めて、言った。「まことに【主】はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」

28:17 彼は恐れて言った。「この場所は、なんと恐れ多いところだろう。ここは神の家にほかならない。ここは天の門だ。」

28:18 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを立てて石の柱とし、柱の頭に油を注いだ。



聖書の記述

28:19 そしてその場所の名をベテルと呼んだ。その町の名は、もともとはルズであった。

28:20 ヤコブは誓願を立てた。「神が私とともにおられて、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、

28:21 無事に父の家に帰らせてくださるなら、【主】は私の神となり、

28:22 石の柱として立てたこの石は神の家となります。私は、すべてあなたが私に下さる物の十分の一を必ずあなたに獻げます。」

ヤコブは兄をだまして望みのものを手に入れましたが、恨みをかい実家にいられなくなりました。神を信じて恵をもらうことには熱心でしたが、その方法が間違っていたということは、神様のみこころを行おうとしていなかつたからです。

神様はそのような者をも愛しておられます。愛するがゆえに試練（多くは自分の不信仰、不忠実、自己中心から起きたことですが）を与え、その苦しい経験を通して、これまでの自分と向き合うようにされるのです。ヤコブは孤独と不安、そして疲れと寒さ、そんな中での自責の念にも苦しめられながら、たった一人で闇の中にいたのです。

神様は解決を与えてくださいました。が、それは目先の問題を解決するような即効性のあるものではありませんでした。何よりも、主がそのどん底状態において共におられるという事実です。そしてヤコブが本当に求めていた、大きな希望を約束してくださったのです。

私たちクリスチヤンは、どんな人間的な努力も（哲学も宗教も思想も善行もプロジェクトも）罪を解決して天国へ導くとは考えていません。神であるイエス様の十字架だけが、罪の赦しと永遠のいのちをもたらすのは自明のことです。つまり救いのはしご、解決のはしごは天から伸ばされているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

